

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成25年 4月～6月 実績

平成25年 7月～9月 見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 平成25年4～6月期実績及び平成25年7～9月期見通し
7. 調査時点 平成25年5月31日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合から＜減少・低下・悪化＞の割合を差し引いた値で、＜景気動向指数＞を表しています。DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

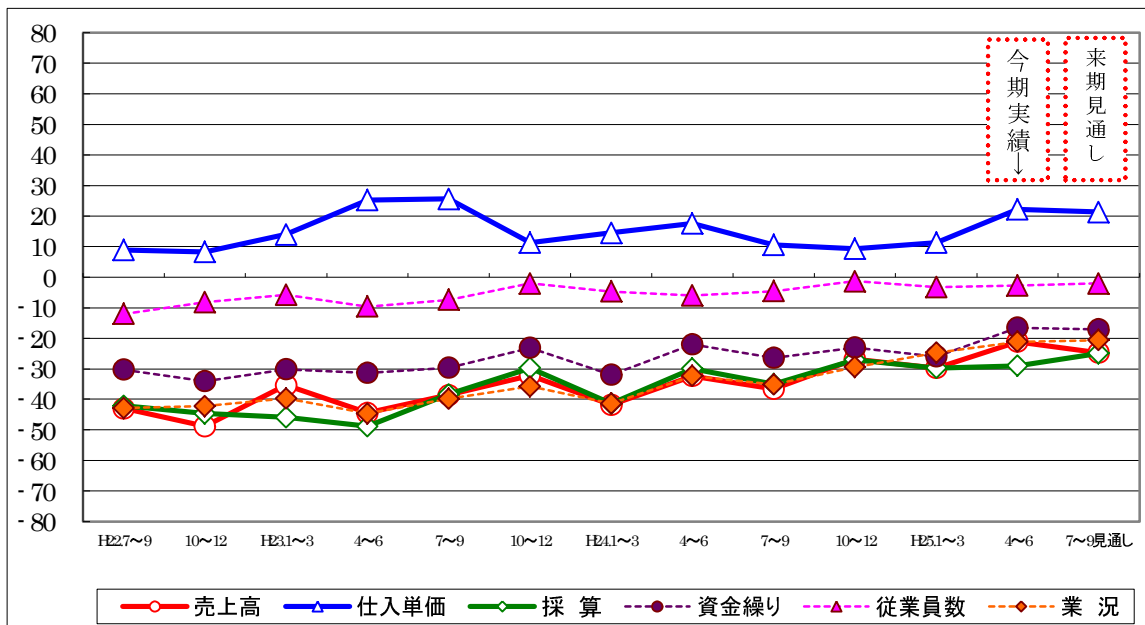
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学地域経済研究所 教授 南保勝氏

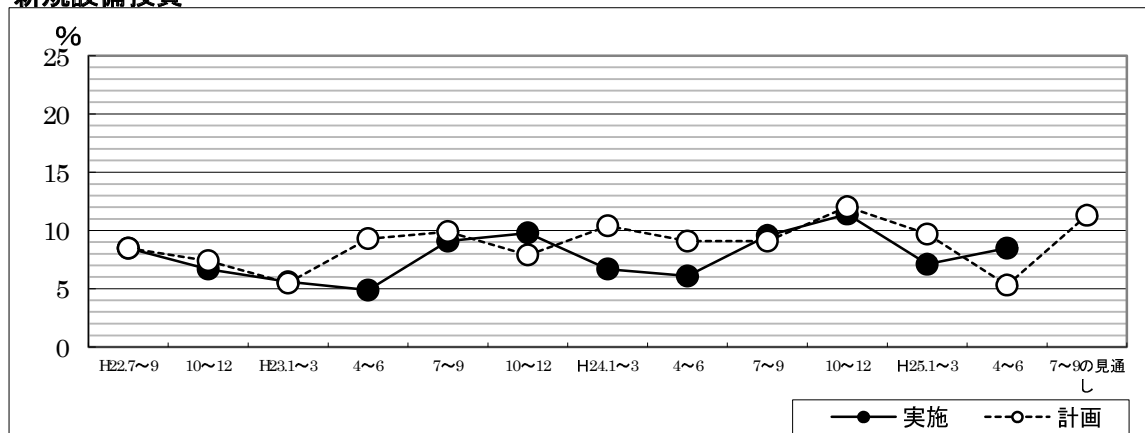
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

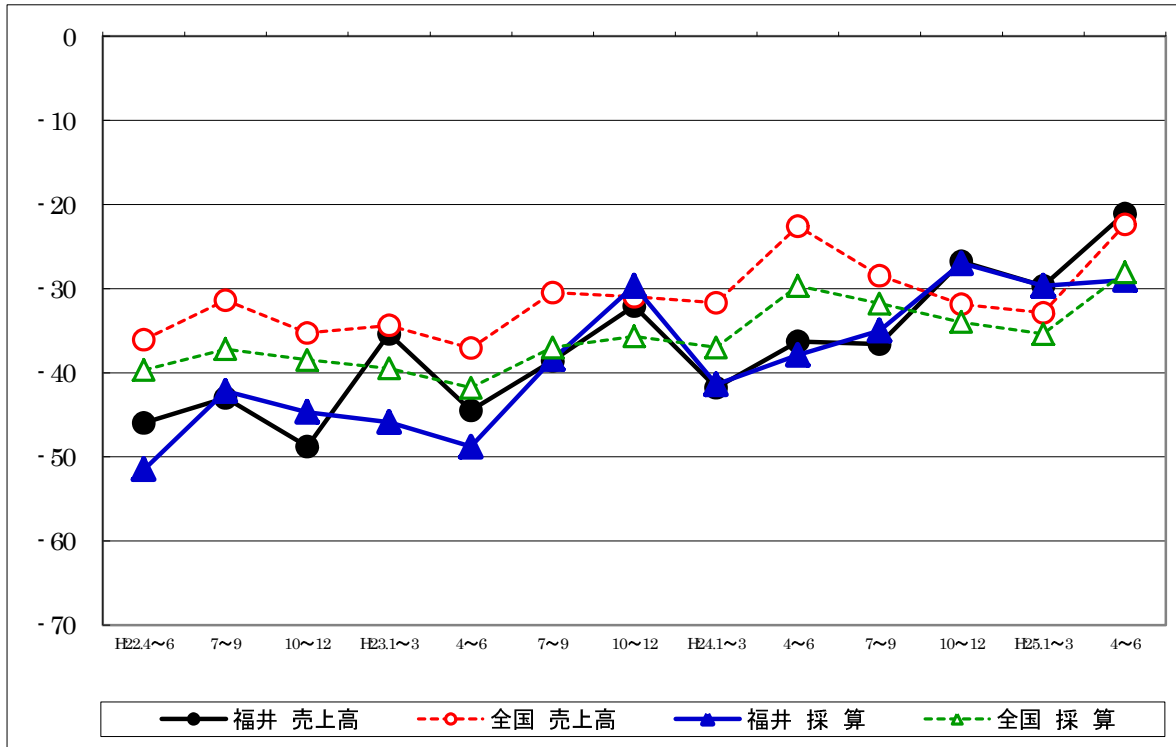
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.7~9	▲ 43.0	8.9	▲ 42.2	▲ 30.2	▲ 12.0	▲ 42.9
10~12	▲ 48.8	8.3	▲ 44.7	▲ 34.0	▲ 8.2	▲ 42.3
H23.1~3	▲ 35.4	14.0	▲ 45.9	▲ 30.1	▲ 5.8	▲ 39.7
4~6	▲ 44.5	25.2	▲ 48.8	▲ 31.3	▲ 9.6	▲ 44.7
7~9	▲ 38.6	25.6	▲ 38.4	▲ 29.6	▲ 7.4	▲ 39.8
10~12	▲ 32.1	11.3	▲ 29.7	▲ 23.1	▲ 2.0	▲ 35.8
H24.1~3	▲ 41.8	14.5	▲ 41.4	▲ 31.9	▲ 4.7	▲ 41.4
4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7~9見通し	▲ 24.7	21.3	▲ 24.9	▲ 17.1	▲ 2.0	▲ 20.6



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成25年4-6月期の日本経済を概観すると、従来の政策効果による生産上昇、個人消費の持ち直しなどを背景として、企業部門、家計部門ともに緩やかな回復に向かっている。ちなみに、景気動向を端的に示す鉱工業生産指数は、5月が前月比+2.0%と4か月連続の上昇。国内消費も株高・円安を受けて消費マインドが大幅改善。海外需要も米国の堅調な成長などを受けて持ち直しの動きを強めており、7月以降もこの傾向に大きな変化は生じないとする考えが支配的である。

一方、福井県経済（4-6月期）に目を転じると、企業部門では、製造業で一般機械など一部産業に弱い動きがみられるものの、化学、電子部品・デバイスを中心に高水準の操業を維持しており、全体としても持ち直しの動きを強めている。家計部門も個人消費の面でマインドの改善から高額品需要に動きがあるなど、総じてみれば持ち直している。

こうした中、今期（H25年4-6月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち、仕入単価（逆指数）（前期11.3→今期22.2）を除く5項目で改善傾向を示している。ちなみに、売上高が前期▲29.7から今期▲21.1へ、採算が前期▲29.7から今期▲29.0へ、資金繰りが前期▲25.9から今期▲16.5へ、従業員数が前期▲3.3から今期▲2.7へ、業況が前期▲24.7から今期▲21.1へと改善した。また、来期（平成25年7-9月期）の見通しについては、仕入単価、採算、従業員数、業況の4項目で改善予測となっているが、どれも小幅な動きであり、回復への足取りはいまだ重いとみるべきであろう。

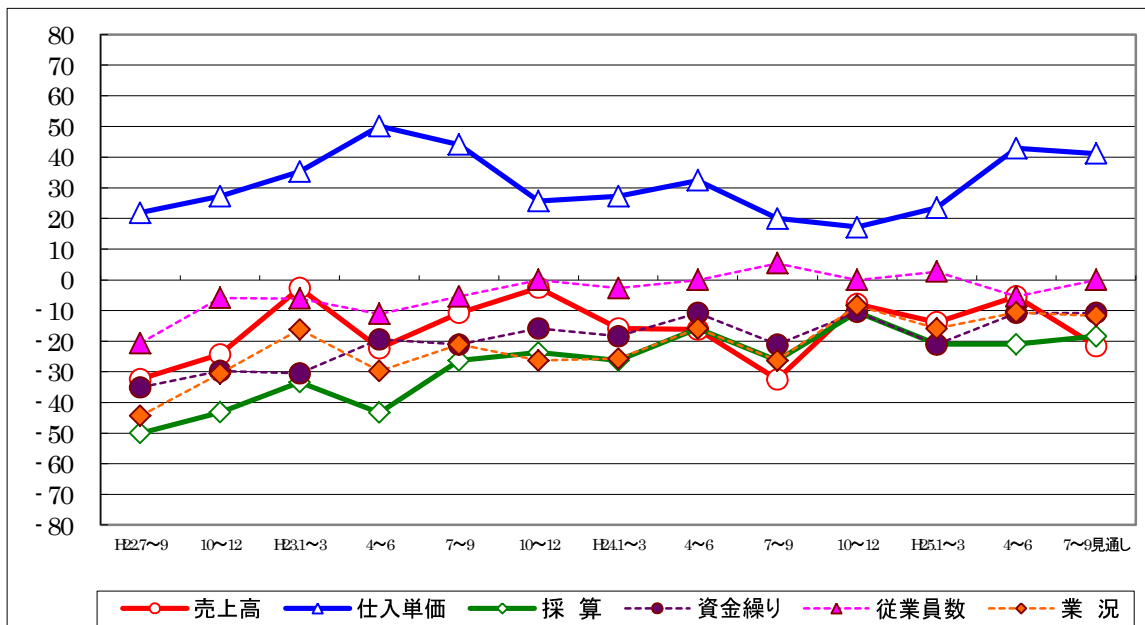
また、売上高と採算につき、そのDI値を全国と比較すると、両項目とも全国、福井県ともに改善傾向となっているが、その勢いは全国が強い。ちなみに、全国は、売上高が前期の▲32.9から今期▲22.4へ、採算が前期の▲35.4から今期▲28.1へと改善したのに対し、福井県は、売上高が前期の▲29.7から今期▲21.1へ、採算が前期の▲29.7から今期▲29.0へと改善したものの、全国に比べその動きは小さい。

一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画の5.3%に対して実施が8.5%となり、実施が計画を上回っている。また、先行き（H25年7-9月期）については、さらに増加し11.3%の企業で設備投資を計画している。

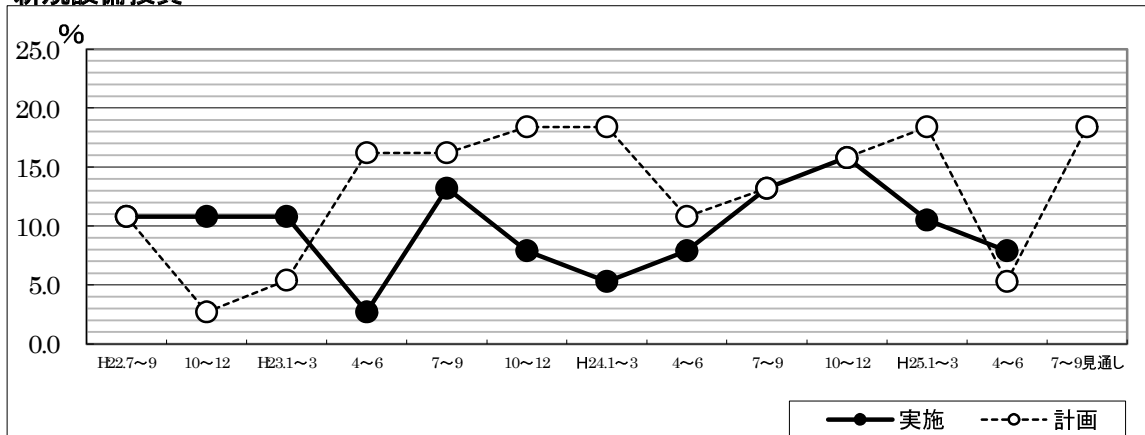
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

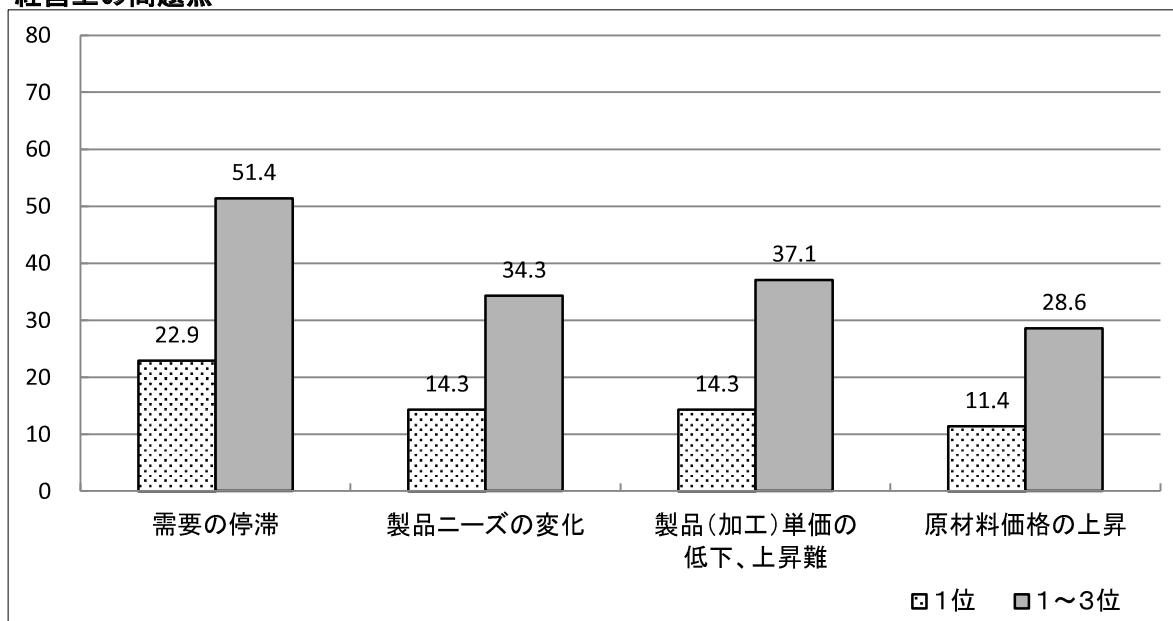
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.7~9	▲ 32.4	21.9	▲ 50.0	▲ 35.1	▲ 20.6	▲ 44.4
10~12	▲ 24.3	27.3	▲ 43.2	▲ 29.7	▲ 5.9	▲ 30.6
H23.1~3	▲ 2.7	35.3	▲ 33.4	▲ 30.5	▲ 6.1	▲ 16.2
4~6	▲ 22.3	50.1	▲ 43.3	▲ 19.4	▲ 11.1	▲ 29.7
7~9	▲ 10.8	44.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 5.4	▲ 21.1
10~12	▲ 2.6	25.7	▲ 23.7	▲ 15.8	0.0	▲ 26.3
H24.1~3	▲ 15.8	27.3	▲ 26.3	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 25.7
4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7~9見通し	▲ 21.6	41.2	▲ 18.4	▲ 10.8	0.0	▲ 11.8



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・現在のところ材料の値上げ等はないが、今後、円安になり、原料があがると値上げの打診があるかもしれない。
- ・円安により輸入原料及びプラスチック等の包装資材の高騰が予想され、利益が圧迫してくると思われる。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、一般機械など一部で弱含んでいるが、電気機械ではスマートフォン需要を中心とした電子部品・デバイス、化学では化粧品や医薬品関連、プラスチックでは住関連などで堅調な生産・出荷動向を維持しているほか、繊維も国内衣料品需要の好調な売れ行きと海外も円安傾向に支えられ下げ止まり感がみられる。ただ、眼鏡枠は、内需は海外品の流入による価格破壊の進行、外需は円高、欧州危機による需要不振や海外産地との競合などから、受注量・受注単価ともに激しさを増している。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、売上高（前期▲13.9→今期▲5.4）、資金繰り（前期▲21.1→今期▲10.8）、業況（前期▲15.8→今期▲10.6）の3項目で改善傾向がみられるものの、仕入単価（逆指数）が23.5から42.9へと19.4ポイント悪化する中、採算（前期▲21.0→今期▲21.0）は横ばいで推移、従業員数（前期2.7→今期▲5.4）も悪化するなど、その判断にバラツキがみられる。この背景には、業種間、規模間による格差の問題、昨今の円安による原材料価格アップなどの問題が影響しているものと思われる。

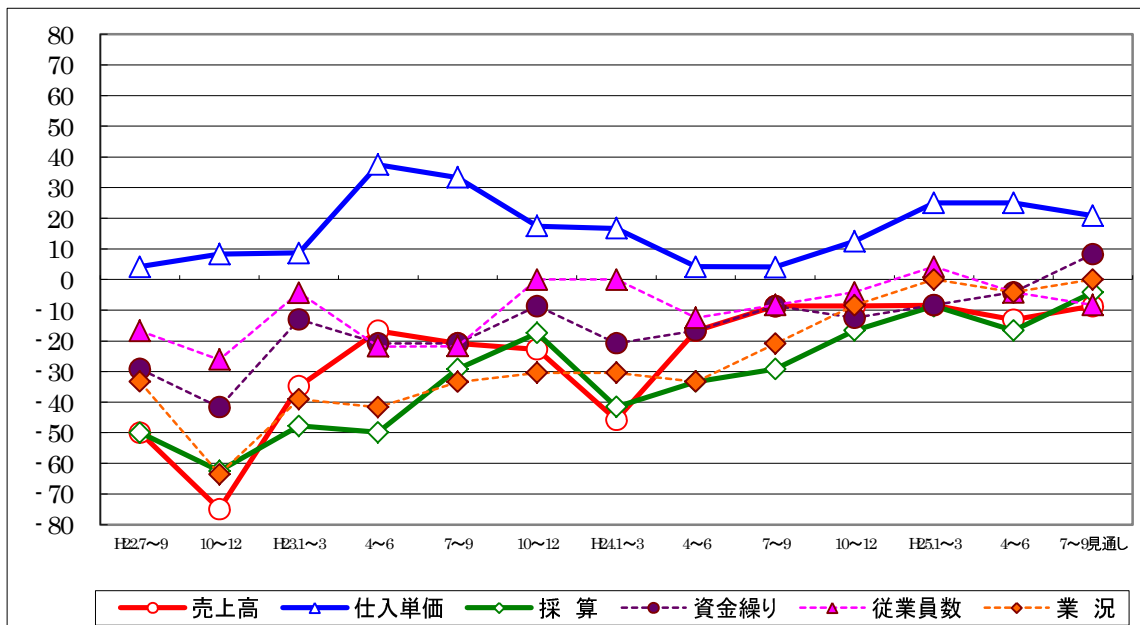
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画5.3%に対し、実施が7.9%となり、実施が計画を上回っている。また、先行き（H25年7-9月期）についても18.4%の企業で何らかの設備投資を計画しており、大幅な増加が予想される。

その他、経営上の問題点については、前期に引き続き「需要の停滞」を指摘する企業が多く、1位に挙げた企業ウエイトが22.9%、1位～3位までに挙げた企業ウエイトも51.4%を占めた。次いで、「製品（加工）単価の低下、上昇難」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト14.3%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト37.1%と続き、その他、「製品ニーズの変化」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイト14.3%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト34.3%、「原材料価格の上昇」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイト11.4%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト28.6%となっている。いずれにせよ、県内製造業の経営環境は、中小企業が大半を占めるだけに、需要の停滞や為替変動の影響を受けやすく、総じて持ち直しているとはいえ景気回復の実感を得るにはいまだ時間がかかるといえる。

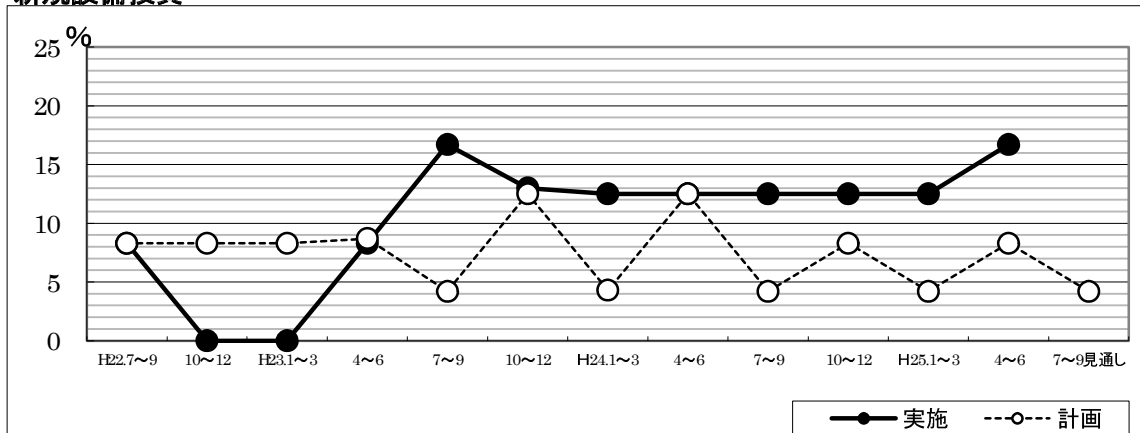
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

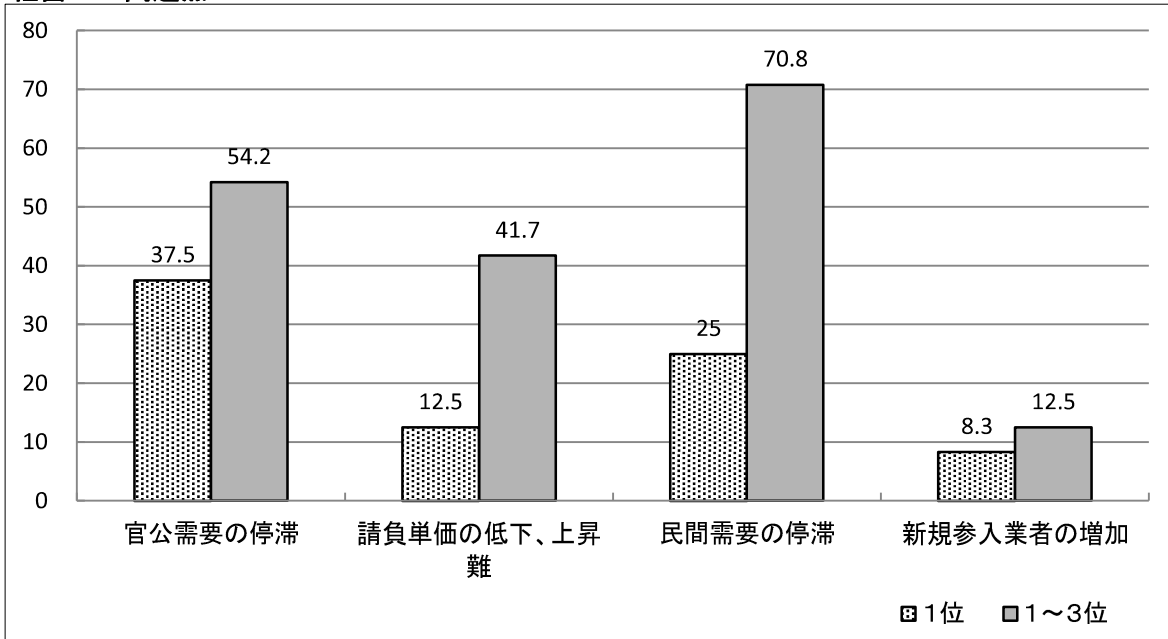
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.7~9	▲ 50.0	4.2	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 33.3
10~12	▲ 75.0	8.3	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 26.1	▲ 63.6
H23.1~3	▲ 34.8	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 39.1
4~6	▲ 16.7	37.5	▲ 49.9	▲ 20.8	▲ 21.8	▲ 41.7
7~9	▲ 20.8	33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 33.4
10~12	▲ 22.8	17.4	▲ 17.4	▲ 8.7	0.0	▲ 30.4
H24.1~3	▲ 45.8	16.7	▲ 41.6	▲ 20.8	0.0	▲ 30.4
4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7~9見通し	▲ 8.7	20.8	▲ 4.2	8.3	▲ 8.3	0.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・大型工事の発注が少ないため、小工事や民間工事でなんとかつないでいる。
- ・アベノミクス効果が及ぶまでにもう少し時間がかかると思われる。発注に関して、地元業者が優先されてもよいと思う。

建設業の景況

福井県内における平成25年4-6月期の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は、累計で388億94百万円の前年同期比18.0%増、発注件数でも累計803件の同30.8%の増加となった。ちなみに発注者別では、県関連工事が72億77百万円の同7.6%増、市町村関連工事が113億52百万円の同27.3%増、国家関連工事が43億99百万円の同78.4%増となったほか、独立行政法人関連工事は157億71百万円の同11.2%増と金額では最も大きい。

一方、住宅投資については、平成25年4月から平成25年5月までの累計で、前年同期比12.0%増の740戸となっている。利用関係別では、主力の持家が前年同期比19.3%増の476戸、貸家が同11.7%増の121戸となっている。今後も消費税率アップを見込んだ駆け込み需要から住宅投資は増加が期待される。

しかし、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、資金繰り（前期▲8.3→今期▲4.2）を除く5項目で横ばい或いは悪化傾向となっている。ちなみに、各項目の指数をみると、仕入単価（逆指数）が前期の25.0と同率（今期25.0）であった他、売上高が前期▲8.4→今期▲13.1、採算が前期▲8.7→今期▲16.6、従業員数が前期4.2→今期▲4.2、業況が前期0.0→今期▲4.2となっている。また、先行き（H25年7-9月期）については、従業員数を除く5項目で改善予測が立てられている。

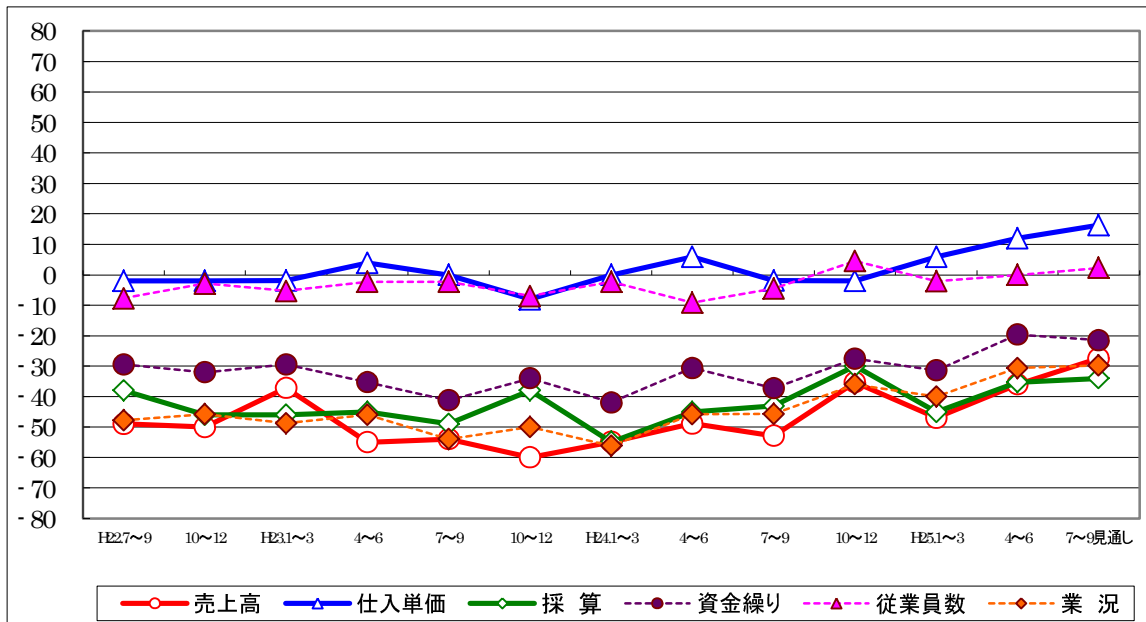
一方、新規設備投資については、計画の8.3%に対し、実施が16.7%と、実施が計画を大きく上回った。ただ、来期（H25年7-9月期）の見通しについては、計画している企業ウェイトが4.2%とやや少ない。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」を1位に挙げる企業ウェイトが37.5%を占め最多となった。ただ、1位～3位に挙げた企業ウェイトでは「民間需要の停滞」への指摘が最も多く70.8%に達している。その他、「請負単価の低下、上昇難」への指摘は、1位に挙げた企業ウェイトが12.5%、1位～3位に挙げた企業ウェイトが41.7%となったほか、「新規参入業者の増加」への指摘も、1位に挙げた企業ウェイト8.3%、1位～3位に挙げた企業ウェイト12.5%と比較的多い。

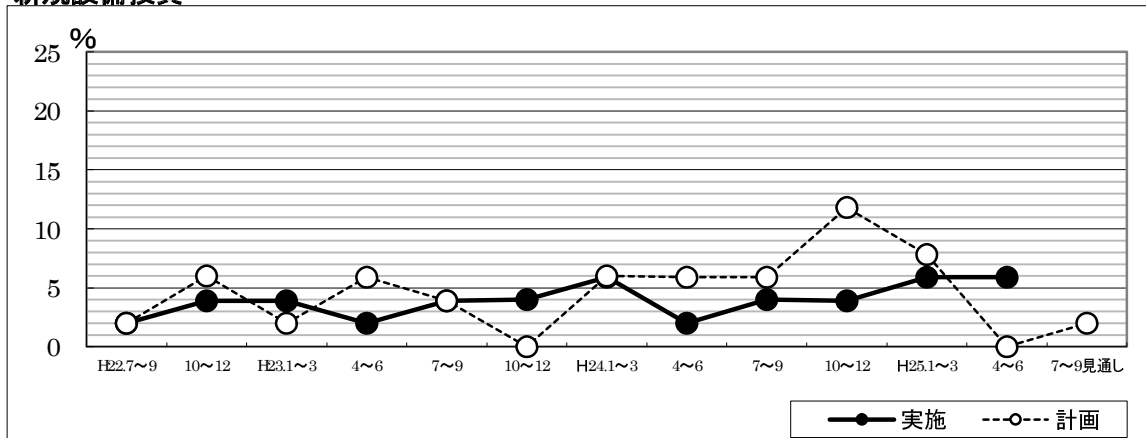
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

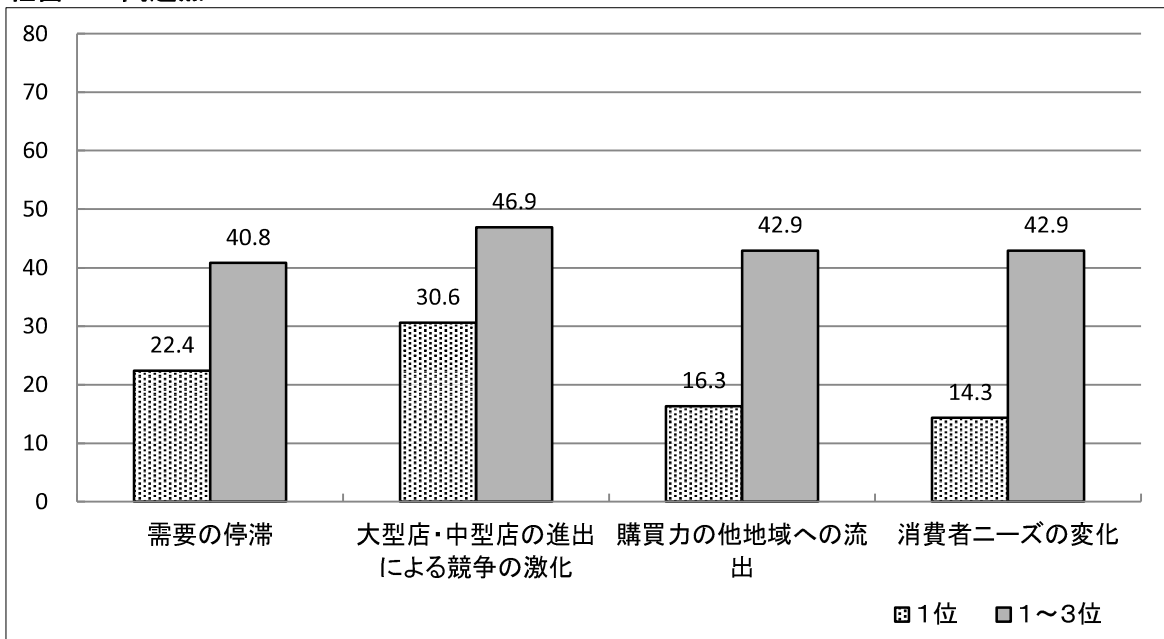
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.7~9	▲ 49.0	▲ 2.0	▲ 38.0	▲ 29.4	▲ 7.7	▲ 47.8
10~12	▲ 50.0	▲ 2.0	▲ 46.0	▲ 32.0	▲ 2.9	▲ 45.8
H23.1~3	▲ 37.2	▲ 1.9	▲ 46.0	▲ 29.4	▲ 5.3	▲ 48.8
4~6	▲ 55.0	3.9	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 2.3	▲ 46.0
7~9	▲ 54.0	0.0	▲ 49.0	▲ 41.2	▲ 2.3	▲ 54.0
10~12	▲ 60.0	▲ 8.0	▲ 38.0	▲ 34.0	▲ 7.0	▲ 50.0
H24.1~3	▲ 54.9	0.0	▲ 54.9	▲ 42.0	▲ 2.3	▲ 56.2
4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7~9見通し	▲ 27.4	16.3	▲ 34.0	▲ 21.5	2.3	▲ 29.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・今後の物価上昇に対応できるかが、課題である。
- ・来年4月より消費税が増税されるが、価格表示は税込みではなく、税別と表示できるため、中小企業にとっては、良かったのではないかと考えている。

小売業の景況

近畿経済産業局が発表する県内大型小売店販売額状況（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、平成25年1-5月累計で297億10億円の前年同期比1.1%増と堅調な動きを示している。この要因は、大型TVなどの家電品で動きが鈍いものの、飲食料品が増加しているほか、高額品に動きがみられることなどによる。消費者コンフィデンス関連指標（消費者態度指数）をもとに今後の動向を予測すると、昨年末以降の株価上昇や、足元の雇用環境改善の動きを受け、持ち直し感が続くものと思われる。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示す6項目のDI値のうち仕入単価を除いた5項目で改善傾向を示した。ちなみに、売上高が前期の▲47.0から今期▲36.0へ、仕入単価（逆指数）が5.9から今期12.0へ、採算が▲45.1から今期▲35.3へ、資金繰りが前期の▲31.4から今期▲19.6へ、従業員数が前期の▲2.1から今期0.0へ、業況が前期の▲31.4から今期▲19.6へ、従業員数が前期▲2.1から今期0.0へ、業況が前期▲40.0から今期▲30.6となっている。また、今後の見通し（H25年7-9月期）についても、売上高、採算、従業員数、業況の4項目で改善予測となっており、持ち直し感は強まるものと期待される。

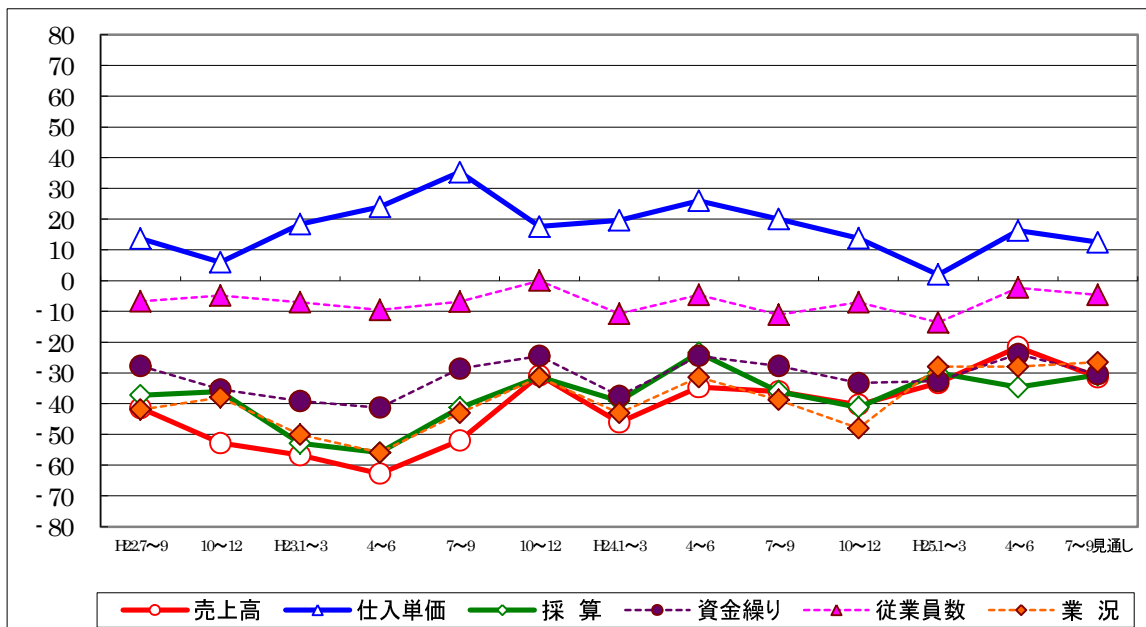
一方、新規設備投資については、今期の投資計画がみられない状況の中、5.9%の企業が実施している。しかし、先行きについては計画している企業が2.0%と低く、小売業界では今暫く低調な投資動向が続くものと思われる。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争の激化」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト30.6%、1位～3位に挙げた企業ウエイト46.9%となり最多となった。また、「需要の停滞」への指摘も比較的多く、1位に挙げた企業ウエイト22.4%、1位～3位に挙げた企業ウエイト40.8%を占めた。その他、「購買力の他地域への流出」への指摘は、1位に挙げた企業ウエイト16.3%、1位～3位に指摘する企業ウエイト42.9%、「消費者ニーズの変化」への指摘は、1位に指摘した企業ウエイト14.3%、1位～3位の企業ウエイト42.9%となっている。いずれにせよ、小売業界を包む経営環境は、今後も厳しさが残る状況と言える。

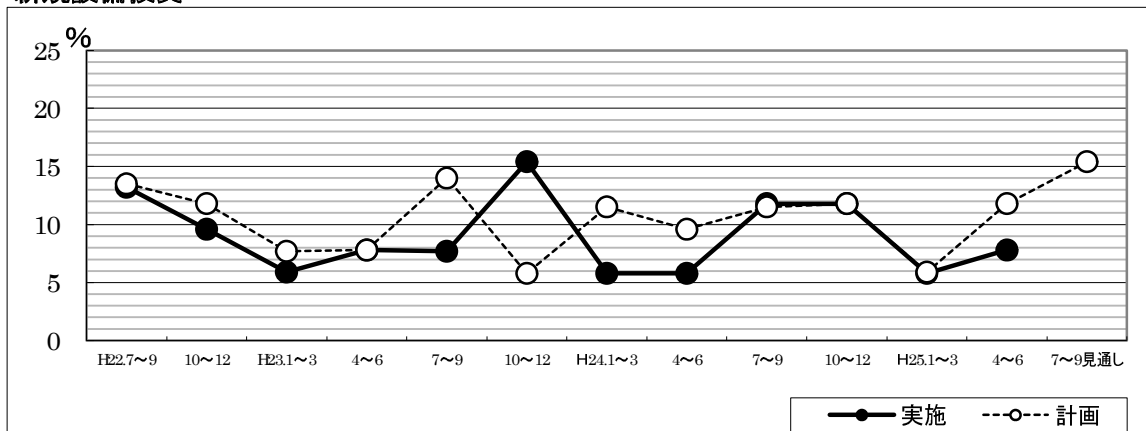
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

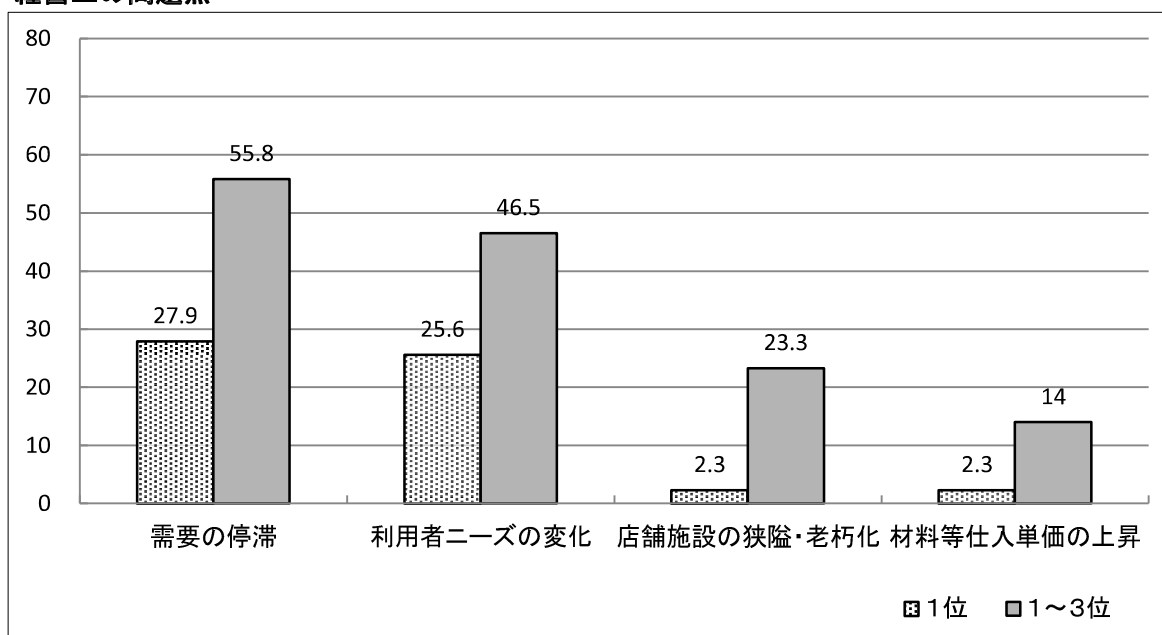
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.7~9	▲ 41.5	13.7	▲ 37.3	▲ 27.7	▲ 6.7	▲ 42.0
10~12	▲ 52.9	6.0	▲ 36.0	▲ 35.4	▲ 4.8	▲ 38.0
H23.1~3	▲ 56.8	18.4	▲ 53.0	▲ 39.2	▲ 7.0	▲ 50.1
4~6	▲ 62.8	24.0	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 9.5	▲ 56.0
7~9	▲ 52.0	35.3	▲ 41.3	▲ 28.6	▲ 6.8	▲ 43.1
10~12	▲ 30.8	17.6	▲ 31.3	▲ 24.5	0.0	▲ 31.4
H24.1~3	▲ 46.2	19.6	▲ 39.2	▲ 37.5	▲ 10.8	▲ 43.1
4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10~12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1~3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4~6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7~9見通し	▲ 31.4	12.5	▲ 30.7	▲ 30.4	▲ 4.6	▲ 26.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・売上が伸び悩む中、店舗及び設備が老朽化してきている。今後の資金繰りが大変である。
- ・今後、受発注が増える見込みであり、仕事面で安定してきている。

サービス業の景況






総務省統計局の「平成24年経済センサス活動調査」を見ると、福井県には平成24年現在42,918事業所の事業所があり、全体の74.1%にあたる31,815事業所が第3次産業関連の事業所となっている。そのうちウエイトが最も高い卸・小売業（11,211事業所、構成比26.1%）を除けば、宿泊・飲食サービス業が5,403事業所（構成比12.6%）と続き、生活関連サービス業・娯楽業（3,594事業所、構成比8.4%）も比較的多い。その他、福井県サービス業の特徴として、複合サービス業（構成比：福井県0.8%、全国0.6%）やサービス業（他に分類されないもの）（構成比：福井県7.8%、全国6.6%）のウエイトが全国を上回っており、このことから、福井県の場合、サービス業全体のウエイトは低いですが、多様なサービス業が立地する地域であることもわかる。





























































こうした中、景況調査をみると、福井県のサービス業では、D I値6項目中3項目が改善、1項目に変化がみられず、残り2項目で悪化を示すなど、バラツキがみられた。この要因は、業種業態により景況感に格差が出ているためであろう。ちなみに、前期と今期を比較すると、売上高（▲33.3→▲21.6）、仕入単価（逆指数）（2.0→16.3）、採算（▲30.0→▲34.7）、資金繰り（▲32.7→▲23.9）、従業員数（▲13.6→▲2.3）、業況（▲28.0→▲28.0）となっている。また、先行き（H25年7-9月期）については、売上高、資金繰り、従業員数の3項目で悪化、仕入単価（逆指数）、採算、業況の3項目で改善予測が立てられている。

一方、新規設備投資については、計画11.8%に対し実施が7.8%と、実施が計画を下回ったものの、先行きについては、何らかの投資を計画している企業が15.4%に達するなど、投資意欲の改善が期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト27.9%、1位~3位までに指摘した企業ウエイト55.8%と高い水準となったほか、「利用者ニーズの変化」への指摘も、1位に指摘した企業ウエイト25.6%、1位~3位に指摘した企業ウエイト46.5%を占めている。その他、僅かではあるが「店舗施設の狭隘・老朽化」、「材料仕入単価の上昇」への指摘もみられた。

全国・福井景気動向 平成25年4月～6月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 22.4	29.2	▲ 28.1	▲ 18.5	▲ 3.5	▲ 39.9
	製造業						
	DI値	▲ 21.3	39.8	▲ 29.0	▲ 19.9	▲ 2.6	▲ 22.6
	建設業						
	DI値	▲ 4.7	42.1	▲ 18.3	▲ 7.8	▲ 2.1	▲ 5.4
	小売業						
	DI値	▲ 33.7	15.6	▲ 34.2	▲ 24.1	▲ 3.6	▲ 34.7
	サービス業						
	DI値	▲ 22.7	28.7	▲ 27.1	▲ 18.1	▲ 4.6	▲ 22.9
福井	全体						
	DI値	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
	製造業						
	DI値	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
	建設業						
	DI値	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
	小売業						
	DI値	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
	サービス業						
DI値	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。